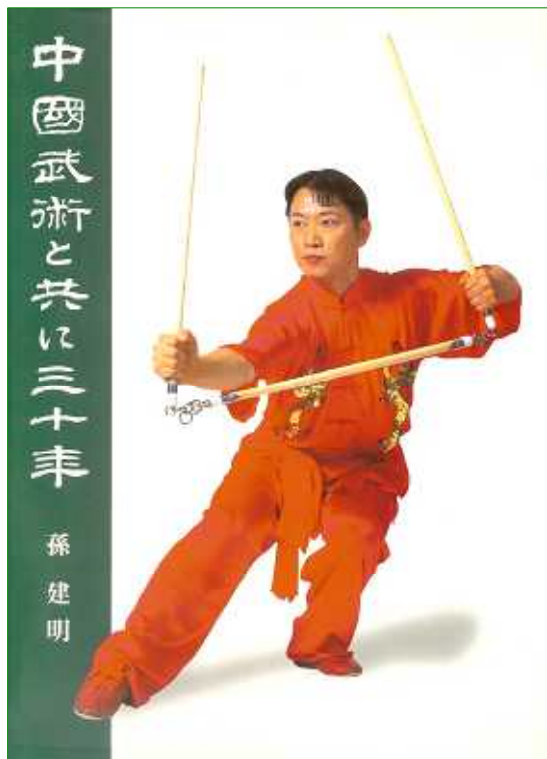


7. 今井先生による 付 録

〔1〕 武術太極拳の練習・演武の様子

(イ) 師・孫建明老師について

北京生まれ、10歳より中国武術の専門学校にて、プロ選手としての特訓を受け、1978年、中国武術選手権大会において、男子剣術一位。以来、中国武術の世界的トップ選手として活躍。来日後、日本武術太極拳連盟ヘッドコーチを務め、アジア並びに世界選手権大会で優秀な成績を収めた多くの日本選手を育てた。2010年には、中国武術協会より「八段位」を取得（在日現役指導者としては唯一人、最高位）。



一九九九年発行の写真集（株）千代田永田書房より出版
本写真集の編集に当っては、そのアレンジ並びに日本文
作成の多くを今井が担った。



2010年10月 孫老師（右）と共に

(ロ) 24式太極拳

検定を受ける場合などに対象となる、24の動作で構成される最も普遍的な健康太極拳。



手・掌の位置や指の開きも正しく直される



年に一回行われる「交流会」での演武

(八) 32式太極剣

24式太極拳に対応する32の動作で構成される最も普遍的な太極剣。



剣の尖端の高さも数センチ以内の誤差で手直しされる。



太極剣の練習

(二) 太極扇子功

太極拳と気功の中間的位置ある中国伝統の木扇功。
動作は軽やかにして優美であり、健身効果が高く評価されている。



交流会において 表演



太極剣の演武

〔 2 〕 宝生流謡曲の練習と発表

(イ) 師・高橋勇・巨両先生と大坪十喜雄先生について

昭和 28 年から約 15 年間、職場（通研）の同好会において当時既に能楽界において名を知られていた大坪十喜雄（1908～1993、日本能楽会員・重要無形文化財）先生の御指導で、「1対十数名」のかたちで宝生流謡曲の練習を続けた。この頃は無我夢中であつたが、得難い立派な師匠に就いた。

その後約 30 年のブランクの後、今度は「1対1」のかたちで再度宝生流謡曲の手ほどきを受けることにし、もう十年近くになる。先生は比較的近くに住んでおられた高橋勇先生である。勇先生は、その父高橋進*の薫陶を直接受けられ、厳しい御指導をされた。1対1での口移しのお稽古には戸惑うことも少なくなかつた。しかし、誠に残念なことに勇先生は 2005 年、69 歳の若さで逝かれた。その後は御子息の巨先生について1対1でのお稽古を続けてきた。巨先生は四十歳台のお若さであるが**、お稽古は誠に懇切丁寧であり御声も極めて伸び伸びとして綺麗である。



最後尾（地頭）が巨先生である。先生の顔写真もここには示しておいた。（巨先生の“井の頭教室”のお仲間と共に）

右、前列真中の枠に入つた写真は、勇先生の遺影である。勇先生 3 回忌を追善して巨先生門下生達が、渋谷セルリアンタワー内能楽堂で合同大会を行ったときのもの。



* （1902～1984）。シテ方宝生流の昭和の名人として名を馳せ、昭和 53 年人間国宝に指定される。勲四等旭日小授章を追贈された。

** 父 勇 同様、日本能楽会並びに能楽協会会員であり、重要無形文化財総合指定認定者でもある。

(口) こうした能楽会分野において著名な先生方より受けたお稽古の成果をご披露した様子、三例を示しておく。

セルリアンタワー内 能楽堂にて(2007.12.1)
「忠度」の“ワキ”を務める。

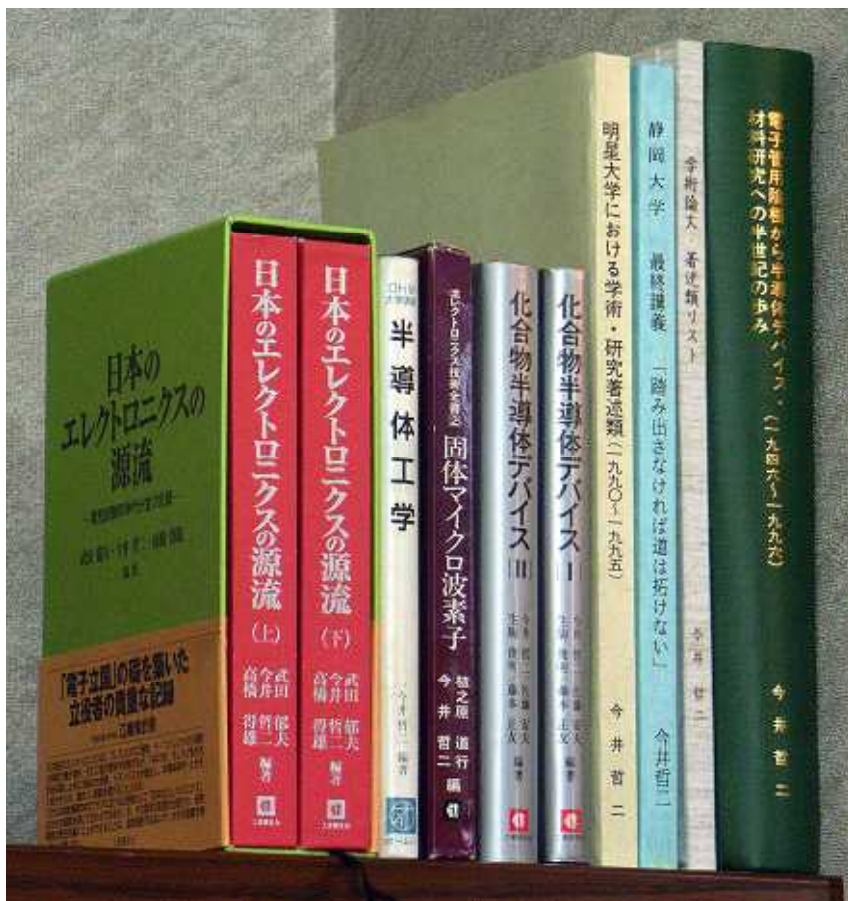


セルリアンタワー内 能楽堂にて(2007.12.1)
“地謡”に加わる。

巨先生の叔父高橋章先生(高橋進先生の御長男。平成 19 年、春の叙勲において、能楽界を代表し、文化財保護功労者として旭日双光章を受く)の門下生による合同大会に加わり「草紙洗」で“紀貫之”を務める。
焼津グランドホテルにて、
2009.7.5



〔 3 〕 今井哲二、研究論文集・著述類の外観



左は、私（今井）が“単著”または主たる“編著者”として纏めた研究論文集および学術著書など。これらはすべて国立国会図書館にも寄贈してある。なお、欧文・和文学術学会誌への投稿掲載原著論文数は約 100 編。

学会活動の主なもの
電気学会：電子管材料専門委員会幹事、**電気通信学会**：規格調査委員会主査、**応用物理学会**：学会誌編集委員、応用電子物性分科会幹事長、応用物理学会理事、固体素子コンフェレンス運営委員、同学会功労会員。
 他に、エネルギー変換懇話会理事、ISSCC 論文委員など。



上は、編著者あるいは編集委員会などからの依頼により、部分執筆をしてある学術書 や ハンドブックなどの主なもの。

8. 編集後記

編集後記

今年の夏は記録的暑さが続き、9月23日秋分の前日まで猛暑だった。そのため会報の編集に取り掛かるのがそれ以後になり、発行が遅れる結果となりました。

懇親会は多くの雑談の中に、有意義な話題が飛び交いました。また、84歳の今井先生が体調不良といいながらも、謡と太極拳をご披露され、その力強さには感銘いたしました。それらについて、特に”最終号”と言うことで、今井先生の「付録」記事(主に写真)が今号に載っておりますのでご覧ください。

今回で懇親会は最後となりましたが、2011年7月23日(土)には、ご自身が建築なさった千葉の橋本宅を訪問することが決定いたしました。希望者は直接橋本さんに電話をし、お申し込みください。

会報編集担当 : 坪井孝光

9. 集合写真



出席者氏名 後列左から・・・高井謙次、小野雅敏、伊藤恭弘、橋本潔
前列左から・・・鈴木威一、今井哲二、島田慶甫、坪井孝光

連絡先

今井研卒研究生・有志の会

TEL : 042-461 - 6796

E-mail : i-tetsuji@jcom.home.ne.jp